

雄阿寒岳の火山活動解説資料（平成 29 年 4 月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～4）

17 日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、以前からみられている北西斜面の弱い地熱域が確認されましたが、前回（2015 年 5 月）と比較して特段の変化はみられませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 雄阿寒岳 周辺図

（矢印は写真の撮影方向、赤丸はこれまで観測されている地熱域を示す）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 26 情複、第 658 号）。

2017 年 4 月 17 日

国土交通省北海道開発局の協力による



図 2 雄阿寒岳 全景
北東側上空（図 1 中の①）から撮影



図 3 雄阿寒岳 北西側斜面融雪域の状況
左：北西側上空（図 1 中の②）から撮影 右：北西側上空（図 1 中の③）から撮影
・楕円内はこれまで観測されている北西側斜面の地熱域の範囲を示す
・噴気は認められませんでした

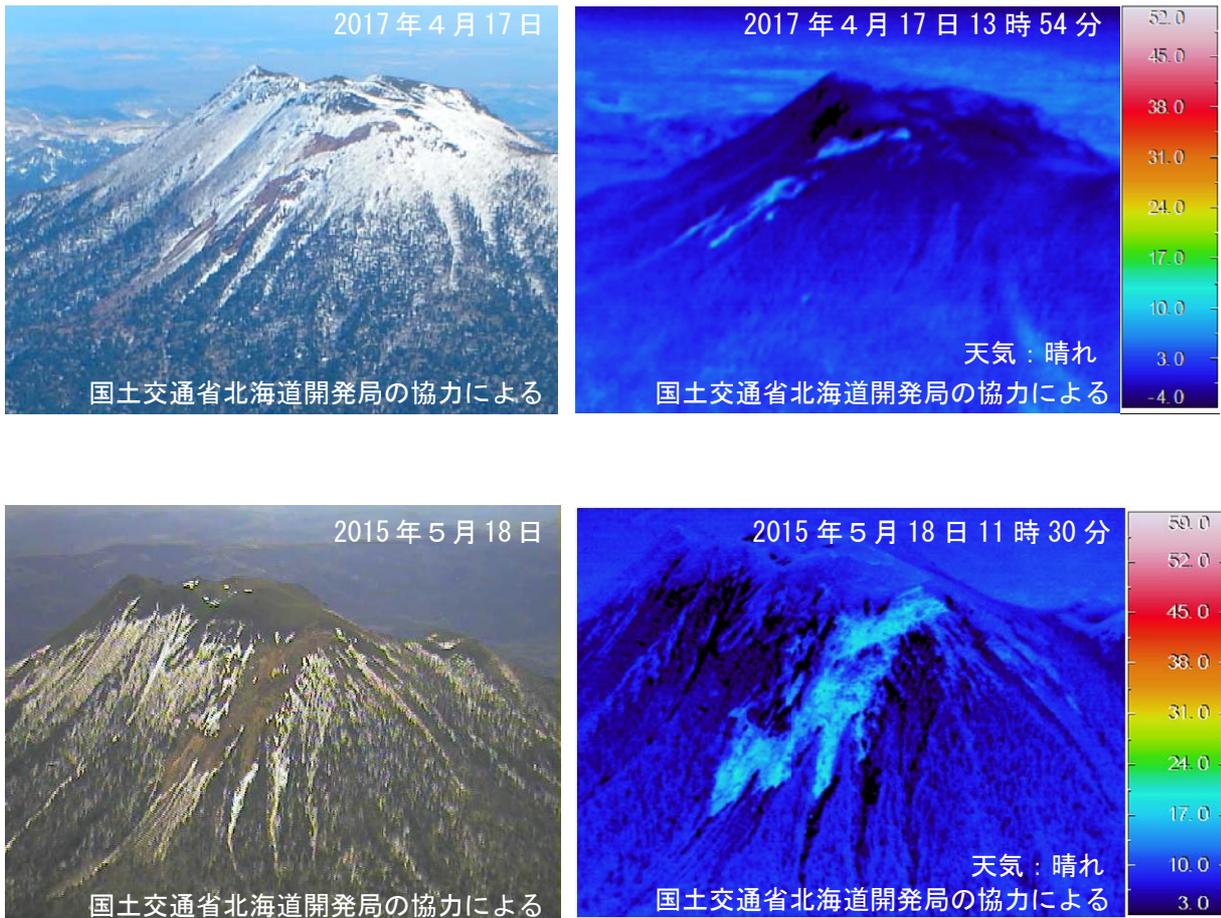


図4 雄阿寒岳 北西側斜面地熱域の状況
上：北西側上空（図1中の④）から撮影 下：北西側上空（図1中の③）から撮影
・画角や積雪の違いにより見え方が異なりますが、2015年5月の観測と比較して地熱域の状況に特段の変化はないと考えられます